会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	令和６年度　第１回高松市地域部活動検討委員会
開催日時	令和６年７月１７日（金）１４時００分～１５時３５分
開催場所	高松市役所　１１階　１１０会議室
議　題	１．委員長の選出について ２．令和６年度の取組について （１）部活動指導員について （２）部活動地域移行支援コーディネーターについて （３）実証事業【運動・スポーツ】について （４）実証事業【文化芸術活動】について （５）地域移行のスケジュールについて
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	野﨑委員、溝渕委員、森川委員、仁谷委員、森山委員、上村委員、辻委員、岡委員、河野委員、西山委員、臼井委員
傍聴者	０人（定員３人）
担当課及び連絡先	保健体育課　087-839-2657

会議の経過及び結果
会議公開の確認、教育局長挨拶及び委員の紹介の後、以下の議題について協議した。 **（１）委員長の選出について** 高松市地域部活動検討委員会設置要綱第５条第１項の規定に基づき、委員の互選及び委員長の指名により、委員長を決定した。 委員長　野﨑委員 **（２）令和６年度の取組について** 事務局から説明（資料No.4～No.9） **（２）についての質問** （委員長） コーディネーターとして学校を回っていて、土日の部活動の段階的な地域移行について現場の声としてはどのようなものがあるか。 （コーディネーター） 校長先生からは「早く方針を示してほしい」という発言が多かった。また、「中学生のことを一番に考えて進めていくことが大切である」という意見もあった。今年は４月２４日に、高松市・高松市教育委員会・高松市スポーツ協会の三者で協定を結び、それぞれの分野で活動していくとともに、協力していくための体制整備ができた。 （委員長） かなりの「困り感」が学校現場の中にあるのは間違いないところだと思う。

（委員）
　子どもたちを大切にするということと教員の働き方改革の二本立てで進んでいると考えている。働き方改革の視点で考えていくと、将来教員が土日の部活動にはかかわらないという方向が前提となってくる。５月にあった香川県教育委員会の会議では、「市町の実態に応じて地域移行を進めていってもらいたいが、地域連携や部活動指導員の配置ではなく、完全に地域に移行することを考えてもらいたい。」という発言があった。難しいことではあるが、方向性を定めていく必要性を感じている。
（委員長）
　地域移行は段階的移行という形で、どう整備していけばいいのかということを委員の皆様方と意見交換させていただきたい。子どもを育てる場である部活動とどうタイアップしていけばいいのかという課題があると思う。
（委員）
　教員の働き方改革、指導者の確保（報酬を含む）、保護者の金銭的な負担等、地域移行について整理しなければならない課題が多くある。また、国や県が行っているような地域が受け皿になることは、人材確保や予算の面からも、とてもハードルが高いと感じるが、予算面の補助はあるのか。
（委員長）
　これまで教員に頼ってきた部活動指導を、今後どうやって協力体制を組めるのかを考えていく必要があるのではないか。地域移行するための予算補助は難しいだろうと思う。競技団体やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等に所属している指導者のネットワークをうまく作っていかなければならないと思う。
（委員）
　国からの予算は、県や市に配分されているのか。
（事務局）
　資料にあるように、地域移行のモデル事業に対しては国の予算がついている。
（委員）
　過去に行ったアンケート調査によると、多くの教員が現状の部活動指導に対して負担を感じているという回答があったと聞いている。休日の部活動の在り方や生徒数の減少によって単独校でチームが組めない学校の状況等、早急に改善を考えていく必要性を感じている。しかし、地域に移行した際の責任の所在等、解決していかなければならない問題は多くあると思う。また、学校生活の時間帯の見直しを行って部活動や授業の時間を確保しながら、放課後にゆとりをもたせる方法等を模索していくことも必要ではないかと考えている。
（委員長）
　お話の基本は、学校は授業だけを行い放課後の部活動は地域に出すことではうまくいかないのではないか、また、学校と地域等の様々な連携が必要ではないかということであったと思う。
　事務局からは、これまでの教員主体の部活動運営から、「地域との連携」や「外部人材の配置の強化」、「学校の困り感等の実態把握」について令和６年度に学校の実態把握に努めるという話であったと思う。
（３－１）実証事業【運動・スポーツ】について
　事務局から説明（資料No. 10～No. 16）

（３－２）実証事業【文化芸術活動】について
　事務局から説明（資料No. 17～No. 19）
（３－１及び３－２）についての質問
（委員）
　４事業から今後ステップアップしていくための予算は、行政側としては考えているのか。

（事務局）
「資料Ｐ１０の⑤」に関係項目が記載されている。
（委員長）
それぞれの活動に必要な経費が見えてきたり、それを市や学校や保護者がどのように負担していくのかを考えたりする必要があると思う。
（委員）
資料Ｐ６にある課題を両方とも解決する方法を考える必要がある。この課題は高松市の全中学校に共通するものである。現在、単独の中学校単位で部活動を行っているが、単独の中学校単位で行っているうちはこの課題は解決できないのではないか。この課題を解決するためには市内をエリアごとに分け、複数校で部活動を行う方法も考えていく必要があるのではないかと思う。
（事務局）
今年度コーディネーターが学校を訪問し「学校の困り感」を把握しているのは、そういった現状を把握するためである。
（委員）
それを行うためには財源が必要である。国の補助金がなくなった時にどうしていくのか。
（事務局）
国の補助金がなくなる前に方向性を決める必要があると考えている。どのくらいの費用が必要になってくるのか試算した上で、公費負担について検討していく必要があると考えている。
（委員）
国の補助金がある間に解決できればいいが、個人的にはそんなに簡単にはいかないと考えている。国の補助金がなくなった後も行政が支援する体制を整えていっていただきたい。これまでも体制を整えるまでは国の補助金があったが、ある程度で補助金がなくなり地域に任される事業があり、とても困ったことを経験している。そうならないように市として考えてもらいたい。
（委員長）
地域移行の実証事業の在り方と、地域移行に対する高松市の支援体制に対する２点の意見であったと思う。難しい面はあると思うが、私としても地域移行に対する財政面の配慮をお願いしたい。
（委員）
個人で行う種目と団体で行う種目、人数的に困っていない種目と困っている種目の整理が必要ではないか。また、すでに民間に移行して行われている種目があれば示してほしい。
（委員）
私の子どもが行っている種目は男女ともにクラブチームが結成されており、増えていく傾向にある。クラブチームの財源は会費（保護者負担）で、メンバーは技術が優れている者が集まっている。クラブに行っていない生徒の受け皿をどうするかが課題になってくると思う。また、他の種目の関係者の方が活動場所として学校施設を開放してもらいたいという依頼を他の会で述べていた。種目によって課題が異なってくると思うが、競技団体や連盟との話し合いは今すぐにでも行う必要があるのではないか。
（委員長）
今、子どものスポーツをめぐる状況が多様化しているというご意見や、「地域」ということばの捉え方についてのご意見があったが、このあたりを事務局でも検討いただきたい。
（委員）
競技団体によっても、トップから小学生までの体制整備ができている団体と、そうでない団体とで差があり、家庭によっても目標にしているところに差があると思う。中学校単位での活動の維持が難しいのであれば、エリアで考えていくのも一つの案ではないか。また、同じ種目でも、めざす目標が違うチームを作り、生徒や保護者が選んで参加する方法もあるのではないか。

（委員長）
子どもの多様性やめざすところの違いよって活動の場がいろいろできるといいという話であったと思う。今回事務局が提示している実証事業は、そういったものを作っていく下準備のようなものだと思う。本日の会議で実証事業について承認していただきたいと思う。また、多様性の話もあったが、現在設置されているクラブについての調査も検討していただきたい。

（５）地域移行のスケジュールについて

事務局から説明（資料No.20）

（委員長）
高松市として本事業が推進できるように力添えをいただきたい。
他に意見はないか。

（コーディネーター）
本日のご意見を今後の業務に生かしていきたい。また、最終目標をはっきり設定したほうが、めざすべき方向が見えて業務もしやすいと思っている。地域指導者の指導費等の予算面の支援等も検討していく必要があるのではないか。

（委員長）
様々な考えがありその通りに進めばいいのだが、現実はなかなかそうならないことも多いのではないか。本会議で検討していることが少しでも実証事業に反映されるように知恵を出しあっていかなければならないのではないかと思う。コーディネーターの皆様もいろいろと課題もあるとは思うが、今後もご協力いただきたい。

（コーディネーター）
地域移行を中学校を含めたコミュニティ単位でやろうとしている地域もある。子どもたちのために力を合わせて行っていく必要があると思っている。

（委員長）
いろいろな意見があったが、様々な課題がある中で一生懸命に行っていこうとしている結果であると了解していただきたい。今後ともお力添えいただければと思う。

（閉会）